2020年度大阪女学院事業計画策定にあたって

Ⅰ．はじめに

大阪女学院の歴史と建学の精神、創立140 周年に向けて大阪女学院全体像を展望している「VISION OJ140」、第Ⅱ期中期計画（2016～19 年度）の評価、第Ⅲ期中期計画案（2020～2024年度、策定過程）を踏まえて、2020 年度事業計画を策定する。さらに、キリスト教教育を土台として、女子教育、英語教育、平和教育、人権教育（解放教育）を継承・発展していくことを基本姿勢とし、環境変化に柔軟に対応し、健全な学院運営の構築を目指す。

国は、2040年の社会の姿をSOCIETY5.0・第4次産業革命、人工知能（AI）、人生100年時代、持続可能な開発目標（SDGs）、グローバル化、地方創生等の言葉で表わし、教育の課題と方向性を、18歳人口及び大学進学者数の減少（2040年の減少率：25～20％）を前提にして、社会の変化に対応できる人材の養成、見える学習成果と社会への貢献、教育の質保証、等を掲げ、教育機関のあり様（教学マネジメント、ガバナンス、情報公開、協働・連携の教育活動、リーダーシップ等）を「多様性」という言葉で束ねている。同時に、グローバル経済に耐える人材の養成、国際競争力を高めるための能力の養成を期待していることが推測できる。

社会が、国際競争力、国内地域での競争力を高めようとする動きにあって、自分、自分の住む場所、自分の国さえ良ければ、それで良いという考え方が拡がり、隣人を大切にすることが失われていく怖れを感じる。私たちは、このような状態に関心を持ち、大阪女学院が単に競争を勝ち抜く人材や能力を養成することだけでなく、開校以来、平和と共生を目指し、かけがえのない・を中心に考え、正直に仕事をする人格を育むことに力を注いできた教育機関であることを自覚しておきたい。

2020年度事業計画は、①長期的な視点で、国がイメージしている2040年の姿を確認しつつ、VISION OJ 150（2034年度／150周年／運営像）を視野に入れること②短期的な視点で財政とリーダーシップの課題への対応に取り組む。

Ⅱ．大阪女学院が推進すること＝VISION OJ 140 に向かう運営

|  |
| --- |
| 建学の精神（ミッションステートメント／2009年9月15日制定）大阪女学院は、創造主を畏れキリストの教えに従って一人ひとりを愛し、何が重要であるかを見抜く力を養い、喜びをもって進んで社会に仕える人を育む |

|  |
| --- |
| VISION OJ 140［大阪女学院が育もうとする学生・生徒像］＊キリスト教に基づく愛と奉仕を実践する人＊自由で主体的な学びの中から物事の本質を見つめ、進むべき道を選ぶことのできる人＊英語力を基礎に幅広い教養と公正な判断力を身に付け、自律的・主体的に行動できる人＊性別の役割にとらわれずに多様な可能性を探し求め、リーダーシップを覚えて、女性の尊厳の確立に努める人＊社会の課題に関心を持ち、世界、日本、地域、人に仕える人［140周年（2024年度）を迎える大阪女学院の姿］「中学校から大学院まで　キリスト教を基盤に全人格を育む女子・女性の教育機関」１．大学・短期大学の運営像（１）地球環境、平和、差別、貧困及び女性の尊厳に関わる潜在的な課題に関する教育の展開（２）英語運用能力の伸張と教養教育との融合を深化させる中で人格を育む教育の展開　（３）2024年度の全体像　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　短期大学：1学年100名　　大学：1学年150名　　全学学生数：800名+大学院生（４）コンセプトキリスト教教育、人権教育、英語教育及び専門教育を柱に、確かな自己認識と社会認識によって問題意識を育み、世界の様々な場で人々と協働する女性を育てる高等教育機関２．中学校・高等学校の運営像（１）世界を見つめ、生き生きと社会で活動する女性を育む　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（２）女性の視点での教育活動の展開（３）2024年度の全体像中学校：1学年4クラス150名　　　　高　校：1学年7クラス240名　　　　　　　全校生徒数：1170名（４）コンセプト平和と共生の実現に寄与する生徒を育む学校３．部門間の連携・協働の姿（１）中学校から大学院までの教育研究機関であり、キリスト教を基盤に全人格を育む女子の学校であることを地域社会に広く報せる。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（２）大学院の研究成果（国際共生、平和）が、短大・大学にとどまらず、中学校・高等学校の中に活かされる教育を展開する。（３）VISION OJ140、第Ⅲ期中期計画に則って、部門間の連携・協働がより充実している。　４．教育研究活動を支える学院運営の姿（１）女性が働くための課題と職場環境の充実（２）学院全体が協働する運営組織とシステムの構築（３）健全な財務体質への転換（４）キャンパス施設設備の維持及び新設計画（注）VISION OJ 140は2019年度に一部改訂したものです。 |

Ⅲ．2020 年度の事業運営課題と取組み

2020年度の事業運営課題への対応は、学院運営会議（学内理事会）を中心として取り組む。

１．第Ⅱ期中期計画（2016～2019 年度）の評価及び第Ⅲ期中期計画（2020～2024年度、策定過程）に則った2020年度事業計画を実行する。

２．学院全体の課題である「事務職員の養成計画」「施設整備計画、資産活用計画及び財政運営計画」「短期大学・大学の学科等の将来構想、中学校・高等学校の将来構想」を具体的な計画として実質化する。

３．VISION OJ 150（2034年度／150周年／運営像）の策定の検討を開始する。

４．2021年度以降の次期役員体制（2021～2024年度）の構想、次世代の運営管理体制（管理職体制）の構想、クリスチャン条項に関する検討に取り組む。

５．健全財政の確立に向けて、特定資産（施設整備積立、退職金積立）の引当を実行する。

６．教育活動の展開方法を再検討し、教職員の労務状況の改善に取り組む。

７．頻発する自然災害に備えて、危機管理体制の再構築と共に、生徒・学生、教職員、関係者に対する防災教育を展開する。

以上